

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 商業 科目 原価計算

教科：商業 科目：原価計算 単位数：3 単位
対象学年組：第2学年 A組～E組
使用教科書：（実教出版 原価計算）

教科 商業 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスの目標：を通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 原価計算 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見出し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養うようにする。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用により主体的かつ協働的に取り組む態度を養うようにする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
○ 原価計算の手続きについて理解させる。 ○ 原価計算期間について理解させる。 ○ 原価計算の種類について理解させる。 ○ 原価計算基準のあらましを理解させる。 ○ 工業簿記における勘定の記入の特徴を理解させる。 ○ 工業簿記に特有な勘定科目とそれぞれの記帳方法を理解させる。 ○ 工業簿記の一連の記帳手続きを理解させる。	原価計算の基礎 1. 原価と原価計算 2. 原価計算のあらまし 3. 工業簿記—製造業における簿記	・製造業の特徴や原価の基本的な内容について理解している。	○			1
		・工業簿記と原価計算の関係について理解し、適用される場面を思考・判断することができる。		○		4
		・製造業における原価計算と工業簿記に興味を示し、自ら学習しようとする態度が見られる。			○	
		・原価要素を集計する過程で原価計算表の役割を理解している。	○			8
○ 棚卸減耗の意味とその処理方法を理解させる。 ○ 材料の払出手続きと材料仕訳帳の記帳方法、原価元帳、製造間接費内訳表への記入方法について理解させる。 ○ 材料の消費数量と材料消費単価の計算方法について理解させる。 ○ 予定価格により、消費高を計算することの意味、予定価格を用いた二通りの記帳法を理解させる。 ○ 労務費の分類とその内容を理解させる。 ○ 賃金支払高の計算方法と賃金支払帳の記帳方法を理解させる。 ○ 賃金消費高の計算方法と賃金仕訳帳の記帳方法を理解させる。 ○ 予定賃率による消費賃金の計算方法と記帳方法を理解させる。 ○ 賃金以外の労務費の種類、その計算方法と記帳方法を理解させる。	4. 原価の費目別計算 5. 材料費の計算	・工業簿記における勘定記入の特徴を理解し、一連の流れを記帳することができる。				
		・製造直接費と製造間接費の区別の必要性や、製造活動に関わる勘定の特性について考え、表現することができる。 ・材料費の分類とその内容を理解している。 ・材料の仕入、消費に関わる処理を理解、適切に記帳することができる。	○			11
	6. 労務費の計算	・予定価格により消費高を計算することの意義について思考し、予定価格を用いた二通りの記帳ができる。		○		
		・労務費の分類とその内容を理解している。 ・労務費の計算方法と記帳方法を理解し、適切に記帳することができる。 ・賃金支払高の計算期間と賃金消費高の計算期間のずれについて理解し、賃金勘定と関連付けて表現することができる。	○		○	9
		・経費の分類とその内容を理解している。 ・経費の消費高を計算できる。	○			
		・経費の消費高の計算において、なぜ3分類するのか、合理的な記帳法はどのようなものかについて考え、適切に判断・表現して学習を進めている。		○		5
		・本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○	
○ 経費の意味とその分類を理解させる。 ○ 経費の計算方法と経費仕訳帳の記帳方法を理解させる。	7. 経費の計算					
○ 部門別個別原価計算の手続きの全体の流れを理解させる。 ○ 部門費配分表、部門費振替表を作成させ、それぞれにもとづく仕訳を、マスターさせる。 ○ 製造部門費予定配賦表を作成させ、それにもとづく仕訳を、マスターさせる。 ○ 部門別個別原価計算の全体的な流れを再確認させる。	原価の部門別計算と製品別計算 8. 個別原価計算 9. 部門別計算	・原価元帳と仕掛品勘定の関係を理解できている。 ・個別原価計算のしくみを理解し、原価計算表に記入ができる。 ・仕損品、作業くずの処理が理解できている。 ・製造間接費の配賦方法について理解し、適切に配賦を行える。 ・実際配賦の欠点を説明でき、予定配賦による記帳を行える。 ・部門別個別原価計算の必要性が理解できている。 ・部門費配分表、部門費振替表を作成でき、それぞれにもとづく記帳ができる。 ・原価部門の設定について部門別計算の目的から考え、各部門の役割について表現で	○			12
				○		

○ 生産形態の違いから、原価計 ○ 組別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と組別総合原価計算のしくみを理解させ組別総合原価計算表の作成に習熟させる。 [★発展]工程別原価要素別の月末 ○ 工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解させる。 ○ 工程別総合原価計算表の作成を通して、工程別総合原価計算のしくみを理解させる。 ○ 工程別総合原価計算の手続きと記帳方法を理解させる。 ○ 半製品の意味と半製品がある場合の記帳方法について理解させる。 ○ 副産物・作業くず・仕損品の意味と、それぞれが発生した場合の記帳方法について理解させる。 ○ 販売費および一般管理費の記帳方法を理解させる。	10. 総合原価計算	・単純総合原価計算が用いられる製造業の特徴と手続きの流れが理解できている。 ・平均法と先入先出法による月末仕掛品原価の計算ができる。 ・等級別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と等級別総合原価計算のしくみを理解し、等級別総合原価計算表を作成でき ・工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解できている。 ・工程別総合原価計算の手続きにもとづき記帳ができる。 ・減損の意味と、それが発生した場合の処理方法について理解し、月末仕掛品原価の計算ができる。 ・副産物、作業くず、仕損品の意味と、それぞれが発生した場合の記帳方法について理解している。 ・製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法が理解できている。 ・販売費及び一般管理費の記帳方法が理解できている。 ・本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	○	○	16
	11. 工程別原価計算				9
	12. 減損・仕損じなどの処理		○	○	3
	製品の完成・販売と決算 13. 製品の完成と販売				2
○ 月次決算の意味と年次決算との関連について理解させる。 ○ 財務諸表の特色を理解させ、	14. 決算と本社・工場間の取引	・製造業の決算の特徴を商品売買業の決算と比較して考えたり、本社工場間の取引の記帳を本支店間の取引と比較して考えてい ・標準原価計算の意義と特色、手続きについて理解できている。 ・標準原価計算により完成品原価や月末仕掛品原価が計算できる。 ・なぜ、原価標準を設定するのかについて ・パーシャルプラン、シングルプランによる原価差異の算出ができ、その結果から差 ・直接原価計算の意義と特色、手続きについて ・直接原価計算による損益計算書の形式を理解し、作成できる。 ・利益計算について関心を持ち、意欲的に ・CVP分析や損益分岐図表により、売上高・ ・本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	○		6
○ 経営管理に役立つ原価計算の必要性を理解させる。 ○ 標準原価計算が原価管理に役立つ理由を知らせる。 ○ 直接原価計算が利益計画に適している理由を知らせる。 ○ 標準原価計算の意義と特色、全体的な流れを理解させる。 ○ 原価標準の設定のしかたについて理解させる。 ○ 完成品と仕掛品の標準原価による計算方法を理解させる。 ○ 原価差異の計算とその分析方法を理解させる。 ○ 標準原価計算の記帳方法を理解させる。	標準原価計算の基礎 15. 標準原価計算			○	11
○ 直接原価計算の意義と特色、記帳方法を理解させる。 ○ 直接原価計算による損益計算書の組み立て方を理解させる。 ○ 損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係を理解させる。	直接原価計算 16. 直接原価計算		○		
				○	8
					合計
					105

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 商業 科目 選択Ⅰ原価計算（学期履修）

教科： 商業 科 目： 選択Ⅰ原価計算（学期履修） 単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ E 組

使用教科書：（ 実教出版 原価計算 ）

教科 商業 の目標： 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 選択Ⅰ原価計算（学期履修） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見出し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養うようにする。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養うようにする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
○ 原価計算の手続きについて理解させる。	原価計算の基礎 1. 原価と原価計算 2. 原価計算のあらまし 3. 工業簿記―製造業における簿記	・製造業の特徴や原価の基本的な内容について理解している。	○			2
○ 原価計算期間について理解させる。		・工業簿記と原価計算の関係について理解し、適用される場面を思考・判断することができる。		○		4
○ 原価計算の種類について理解させる。		・製造業における原価計算と工業簿記に興味を示し、自ら学習しようとする態度が見られる。			○	
○ 原価計算基準のあらましを理解させる。		・原価要素を集計する過程で原価計算表の役割を理解している。	○			8
○ 工業簿記における勘定の記入の特徴を理解させる。	4. 原価の費目別計算 5. 材料費の計算 6. 労務費の計算	・工業簿記における勘定記入の特徴を理解し、一連の流れを記帳することができる。		○		
○ 工業簿記の一連の記帳手続きを学習させることにより、全体的な構造を理解させる。		・製造直接費と製造間接費の区別の必要性や、製造活動に関わる勘定の特性について考え、表現することができる。				
○ 棚卸減耗の意味とその処理方法を理解させる。		・材料費の分類とその内容を理解している。	○			9
○ 材料の払出手続きと材料仕訳帳の記帳方法。原価元帳、製造間接費内訳表への記入方法について理解させる。		・材料の仕入、消費に関わる処理を理解、適切に記帳することができる。				
○ 材料の消費数量と材料消費単価の計算方法について理解させる。		・予定価格により消費高を計算することの意義について思考し、予定価格を用いた二通りの記帳ができる。		○		
○ 予定価格により、消費高を計算することの意味、予定価格を用いた二通りの記帳法を理解させる。			○			8
○ 労務費の分類とその内容を理解させる。		・労務費の計算方法と記帳方法を理解し、適切に記帳することができる。	○	○		
○ 賃金支払高の計算方法と賃金支払帳の記帳方法を理解させる。		・賃金支払高の計算期間と賃金消費高の計算期間のずれについて理解し、賃金勘定と関連付けて表現することができる。				
○ 賃金消費高の計算方法と賃金仕訳帳の記帳方法を理解させる。		・経費の分類とその内容を理解している。	○			5
○ 予定賃率による消費賃金の計算方法と記帳方法を理解させる。		・経費の消費高の計算において、なぜ3分類するのか、合理的な記帳法はどのようなものかについて考え、適切に判断・表現して学習を進めている。		○		
○ 賃金以外の労務費の種類、その計算方法と記帳方法を理解させる。	7. 経費の計算					
○ 経費の意味とその分類を理解させる。		・本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○	
○ 経費の計算方法と経費仕訳帳の記帳方法を理解させる。						
○ 部門別個別原価計算の手続きの全体の流れを理解させる。	原価の部門別計算と製品別計算 8. 個別原価計算 9. 部門別計算	・原価元帳と仕掛品勘定の関係を理解できている。	○			14
○ 部門費配分表、部門費振替表を作成させ、それぞれにもとづく仕訳を、マスターさせる。		・個別原価計算のしくみを理解し、原価計算表に記入ができる。		○		
○ 製造部門費予定配賦表を作成させ、それにもとづく仕訳を、マスターさせる。		・仕損品、作業くずの処理が理解できている。				
○ 部門別個別原価計算の全体的な流れを再確認させる。		・製造間接費の配賦方法について理解し、適切に配賦を行える。				
		・実際配賦の欠点を説明でき、予定配賦による記帳を行える。				
		・部門別個別原価計算の必要性が理解でき				

○ 生産形態の違いから、原価計算 ○ 組別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と組別総合原価計算のしくみを理解させ組別総合原価計算表の作成に習熟させる。 [★発展]工程別原価要素別の月末仕 ○ 工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解させる。 ○ 工程別総合原価計算表の作成を通して、工程別総合原価計算のしくみを理解させる。 ○ 工程別総合原価計算の手続きと記帳方法を理解させる。 ○ 半製品の意味と半製品がある場合の記帳方法について理解させる。 ○ 副産物・作業くず・仕損品の意味と、それぞれが発生した場合の記帳方法について理解させる。 ○ 販売費および一般管理費の記帳方法を理解させる。	10. 総合原価計算	・部門費配分表、部門費振替表を作成でき、それぞれにもとづく記帳ができる。 ・原価部門の設定について部門別計算の目的から考え、各部門の役割について表現できる。	○	○		15
	11. 工程別原価計算	・単純総合原価計算が用いられる製造業の特徴と手続きの流れが理解できている。 ・平均法と先入先出法による月末仕掛品原価の計算ができる。 ・等級別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と等級別総合原価計算のしくみを理解し、等級別総合原価計算表を作成でき ・工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解できている。 ・工程別総合原価計算の手続きにもとづく記帳ができる。				8
	12. 減損・仕損じなどの処理	・減損の意味と、それが発生した場合の処理方法について理解し、月末仕掛品原価の計算ができる。 ・副産物、作業くず、仕損品の意味と、それぞれが発生した場合の記帳方法について理解している。	○		○	6
	製品の完成・販売と決算 13. 製品の完成と販売	・製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法が理解できている。 ・販売費及び一般管理費の記帳方法が理解できている。 ・本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○	3
○ 月次決算の意味と年次決算との関連について理解させる。 ○ 財務諸表の特色を理解させ、製 ○ 経営管理に役立つ原価計算の必要性を理解させる。 ○ 標準原価計算が原価管理に役立つ理由を知らせる。 ○ 直接原価計算が利益計画に適している理由を知らせる。 ○ 標準原価計算の意義と特色、全体的な流れを理解させる。 ○ 原価標準の設定のしかたについて理解させる。 ○ 完成品と仕掛品の標準原価による計算方法を理解させる。 ○ 原価差異の計算とその分析方法を理解させる。 ○ 標準原価計算の記帳方法を理解させる。 ○ 直接原価計算の意義と特色、記帳方法を理解させる。 ○ 直接原価計算による損益計算書の組み立て方を理解させる。 ○ 損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係を理解させる。	14. 決算と本社・工場間の取引	・製造業の決算の特徴を商品売買業の決算と比較して考えたり、本社工場間の取引の記帳を本支店間の取引と比較して考えてい	○			6
	標準原価計算の基礎 15. 標準原価計算	・標準原価計算の意義と特色、手続きについて理解できている。 ・標準原価計算により完成品原価や月末仕掛品原価が計算できる。 ・なぜ、原価標準を設定するのかについて ・パーシャルプラン、シングルプランにより ・原価差異の算出ができ、その結果から差		○		10
	直接原価計算 16. 直接原価計算	・直接原価計算の意義と特色、手続きについて ・直接原価計算による損益計算書の形式を理解し、作成できる。 ・利益計算について関心を持ち、意欲的に ・CVP分析や損益分岐図表により、売上高・	○		○	7
		・本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○	
合計						105